

日光×会津

2010年4月17日(土)—5月30日(日)
小杉放菴記念日光美術館

日光市山内2388-3 TEL.0288(50)1200

休館日:無休 開館時間:午前9時30分-午後5時(入館は午後4時30分まで)

観覧料:一般700(630)円、大高生500(450)円、中学生以下は無料 ※()内は20名以上の団体割引料金
主催:財團法人 小杉放菴記念日光美術館/日光市/日光市教育委員会/下野新聞社 特別協力:福島県立美術館
後援:野岩鉄道株式会社/東武鉄道株式会社

*「まるごと日光・鬼怒川 東武フリーパス」をご持参の方は、入館料を10%引きにいたします。

[特別企画ギャラリー・トーク]

5月1日(土) 14:00- 「喜多方美術俱楽部の画家たち」 増渕鏡子氏(福島県立美術館学芸員)

*企画展観覧券が必要です。当日は受付前にお集まり下さい。



酒井三良 《雪に埋もれつ正月はゆく》 1919年 福島県立美術館



小杉未醒(放菴) 《飲馬》 1914年 小杉放菴記念日光美術館寄託

小杉放菴と喜多方美術俱楽部の人びと

小杉放菴

小川芋錢

酒井三良

森田恒友

小川千甕

近藤浩一路

山内神斧

名取春仙

石塚 翰

石井柏亭

赤城泰舒

相田直彦

春日部たすく

長澤 昇

KOSUGI HOAN
MUSEUM OF ART,
NIKKO 人



日光×会津

小杉放菴と喜多方美術俱楽部の人びと

会津には、大正時代に「喜多方美術俱楽部」というユニークな美術後援会がありました。素封家の田代与三久(号:蘇陽)を中心に、地元の有力者である商人たちが、東京で活躍する画家を招いては画会を開き資金を援助していたこの会を通して、小川芋銭、森田恒友、酒井三良、小川千麿といった数多くの画家たちが蔵敷に逗留し、作品をのこしています。

そして、小杉放菴もまた森田恒友を通してこの会に関わっていたことが、近年、喜多方市美術館や福島県立美術館の調査によって明らかとなりました。喜多方美術俱楽部に参加したメンバーのなかには、小川芋銭を代表とする珊瑚会会員を中心に、日本画・西洋画の両方を手がけた画家や、漫画も得意とした画家たちが目立ち、共通する経験をもつ小杉放菴と交友の深かった画家たちが多かったことが注目されます。

本展では、この「喜多方美術俱楽部」を軸に、約60点余りの作品によって、小杉放菴とその周辺の作家たちの活動をご紹介いたします。



1



2



3



4



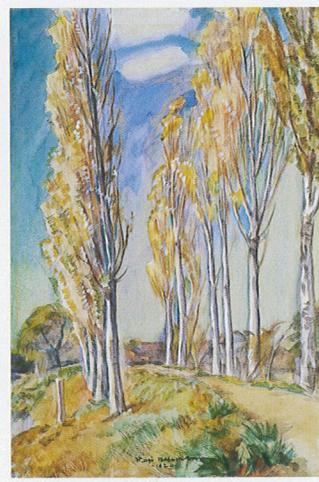
5



6



7



8

- 1 小杉未醒(放菴)《水荘訪客》大正末期 福島県立美術館
- 2 小川芋銭《鍾馗図》1915年 福島県立美術館寄託
- 3 小川千麿《十六羅漢図》大正期 個人蔵
- 4 名取春仙《秋の花鳥》大正期 喜多方蔵敷美術館
- 5 石井柏亭(画)・小川芋銭(賛)《長尾柳鶴像》1914年 個人蔵
- 6 小川芋銭《於那羅合戦》(部分) 1921年 福島県立美術館
- 7 山内神斧《造兵の裏》大正期 個人蔵
- 8 赤城泰舒《〔並木のある風景〕》1920年 個人蔵



【交通案内】

- ・東武日光駅、JR日光駅から清滝・細尾・中禅寺・湯元、西参道(東照宮)
方面行きバス5分。
神橋停留所より徒歩3分
- ・日光宇都宮道路・
日光インターから約2km